

令和 4 年 6 月 9 日現在

機関番号：44518

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19K00725

研究課題名(和文)心身のオノマトペの形態と意味の相関について—医療福祉分野への貢献を目指して—

研究課題名(英文)The Correlation of Morphology and Semantics of Japanese Sensitive Onomatopoeia

研究代表者

吉永 尚 (YOSHINAGA, NAO)

園田学園女子大学短期大学部・その他部局等・教授

研究者番号：70330438

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：オノマトペ研究において、感情・感覚などの心身状態を表す擬態語に特化した研究は未だ少ない。本研究ではこれらの語彙を語形により分類し、それぞれの意味特徴を観察し、語形と意味の相関について考察した。擬態語オノマトペは習得面での難易度が高い分野とされているが、医療福祉人材の養成においては使用頻度が高く教育の必要性が注目されており、初級からの導入も検討されている。中国語話者日本語学習者を実施した質問紙調査により、語形と意味の関係を導入内容に入れた場合の方が理解・定着が促進されることが実証された。オノマトペの効率的な指導方法として、形態と意味の関与を内容に入れた体系的な指導が有効であることを提唱する。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究データが僅少である心身状態を表す擬態語オノマトペの語形と意味の相関について考察を加えた。従来の語形と意味の関与に関する論考は研究者自身の直感的判断に基づくが、日本語母語話者に言語調査を実施し関係性を実証した。また、中国人日本語学習者においてオノマトペの習得が困難であることの原因として擬態語に対応する語彙が存在せず痛覚など心身の状況を細かく表現する習慣がないことによる母語干渉と判断した。初期段階で指導内容に形態的な意味特徴を導入することによりオノマトペの理解・定着が促進されることを同一レベルのクラスで実証し、喫緊の課題である医療福祉人材教育において効率的な指導法となりうることを提唱した。

研究成果の概要(英文)：Mimetic words in the Japanese language, which serve to describe, for example, one's mental or physical condition, have several different patterns of formation. Some of them are derived verbs or adjective-verbs (e.g., na-adjectives) that combine with verbalizing words, such as suru or da, as seen in phrases like iraira-suru 'irritated' or pekopeko-da 'starving', while others are used in their base form to adverbially modify following verbs, as in phrases like gussuri-nemuru 'sleep soundly'. They constitute a group of words with diverse morphological characteristics, and there have been few studies of their functional properties. Here, mimetic words describing mental and physical conditions were first categorized into three groups by structure, namely, those to which suru is added, those to which da, is added, and those without formative elements, and the characteristics of each group were investigated.

研究分野：日本語教育

キーワード： 介護の現場で用いられるオノマトペ オノマトペの形態と意味の関与 促音終止型 撥音終止型 畳語型 オノマトペの日中対照 体感を表すオノマトペの教育

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

従来の日本語教育研究において、オノマトペの個別形式に関する研究自体が少なく、特に、心身の状態を表すオノマトペに特化した習得研究は少ない。「頭がズキッと痛む」「頭がズキンと痛む」「頭がズキズキ痛む」では促音終止、撥音終止、反復形式などの形態的な相違と痛みの持続や軽重は関連しているが、従来の記述研究は話者の主観的判断に依存したものが主であり明確な実証研究が殆ど無い。この分野での言語対照的な研究も管見の限り僅少である。

「中国語話者のための日本語教育研究会」では分担者杉村泰と感覚表現の習得研究を共同、「中国語話者における心理表現上の母語干渉について」(吉永,2011)、「心身の状態を表す擬態語の習得について 中国語話者の作文データをもとに」(吉永,2017)において、中国の大学での習得調査資料を基にオノマトペ習得上の問題点と効率的指導について論じた。また、「看護と介護の日本語教育研究会」では協力者神村初美と連携しベトナム、インドネシアの医療福祉分野日本語学習者に向けたオノマトペ教育について研究を推進した。これらの研究を統合し、前回の科学研究「心身の状態を表すオノマトペの習得研究 医療福祉分野への貢献を視野に入れて (2015-2018、吉永)」では感覚・感情のオノマトペを品詞機能で分類し、品詞認識が習得に大きく関与することを論証し、母語干渉の関わりも含めて考察を加えた。

以上の研究成果を踏まえ、心身のオノマトペの形態と意味の関与について実証し、さらに言語対照的な観点から考察することを発案した。研究成果は医療福祉人材教育を中心とする専門的日本語教育に応用できる可能性が高く、国際的な人材養成に貢献することができる。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は以下の3点である。

1. 広汎な使用実態調査を実施し、心身の状態を表すオノマトペの形態と意味の関係性を実証する。
2. 研究で得られた知見を応用し、言語対照の観点から踏まえ、効率的指導について考察する。  
前回科学研究でのオノマトペ日中英対照を発展させ、ベトナム語、インドネシア語、ネパール語、タイ語と言語対照し、言語データを構築する。
3. 1、2の研究成果を紙媒体、インターネット上で公開し、効率的な教材に応用・開発する。  
研究成果の公開によってオノマトペに特化した言語資料として学術的貢献が期待でき、教材・教授法への応用は、難易度が高く殆ど研究されて来なかったオノマトペ教育推進が見込まれる。また、心身の状態を表すオノマトペにおける各言語対照は未だ稀少である。

国際的な医療福祉人材の養成は喫緊の課題であり、特に心身の状態を表すオノマトペの理解は重要とされる。形態と意味・用法の関係性を明らかにして効率的な指導方法について考察し、教材・教授法の開発に応用する。調査で得られた言語コーパスを公開し、不足している現場のデ

一夕供与に資する。

### 3. 研究の方法

心身の状態を表すオノマトペについて、辞書や新聞・小説、言語コーパス、教育機関、医療福祉現場など広い範囲から使用実態調査を行う。日本語教育機関・医療福祉教育機関の日本語学習者に習得状況の調査を行い、会話・作文などのデータを収集する。正答率が低いものについて文法・語彙・言語習慣などの側面から誤用の原因について分析し、効果的な教授法、視聴覚教材など具体的な対応策を考察する。使用実態調査については について調査する。

#### 日本語話者の心身表現のオノマトペ使用実態調査

・看護辞典、介護ナビ、新聞、小説などの資料（CD-ROM を含む）、言語コーパスによる調査、及び医療福祉現場（近隣の看護・介護施設の従事者・利用者・介護日誌）や教育機関で使用実態調査（インタビュー、文法性判断アンケート、穴埋めテストなど）を実施する。

・「ズキッ」「ズキン」「ズキズキ」などの形態と意味・用法の関与の規則性を導き出す。

#### 日本語学習者の心身表現のオノマトペ習得状況調査

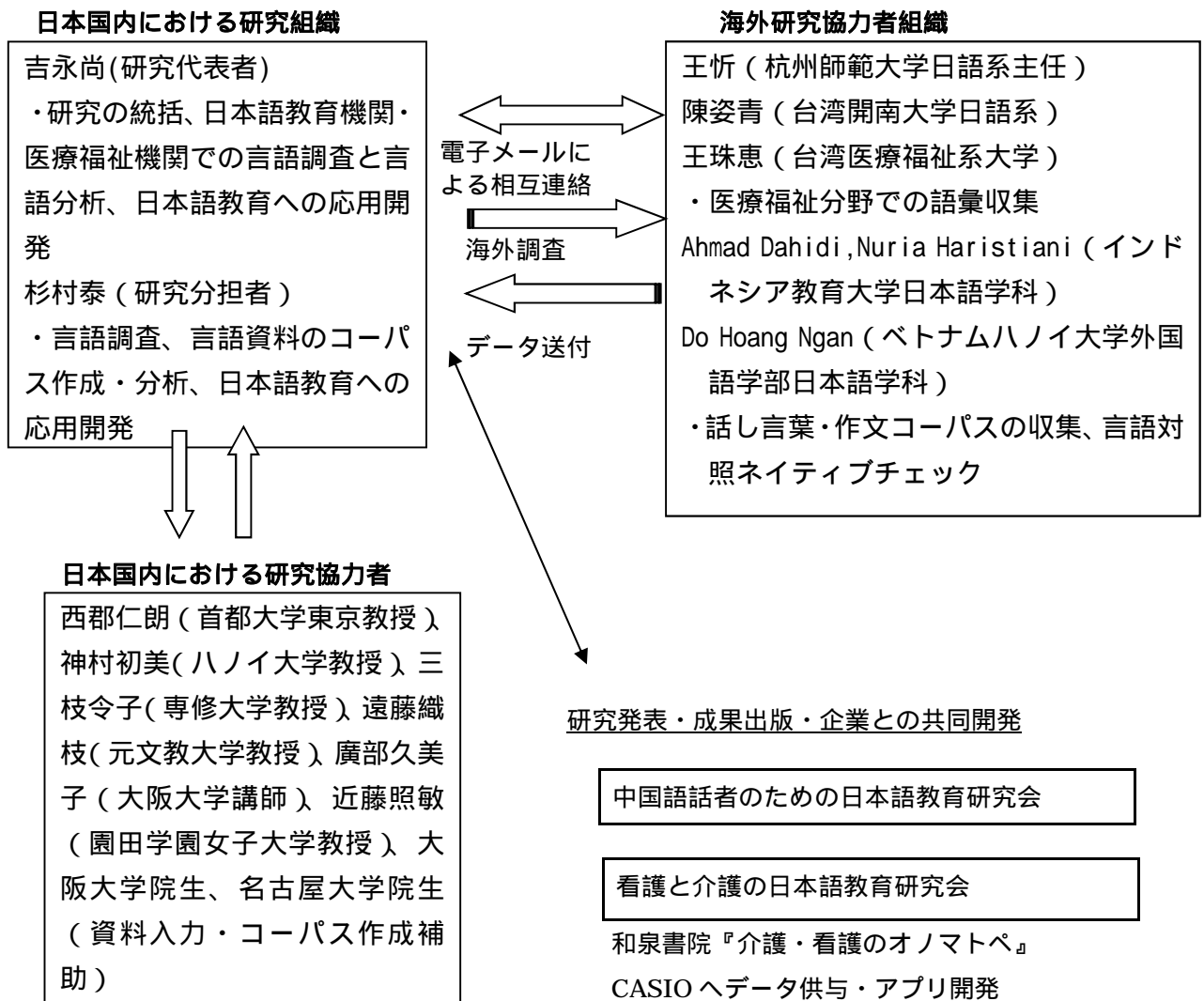
・国内外の日本語教育機関、医療福祉教育機関の日本語学習者、外国人従事者に習得実態調査をする。（インタビュー、文法性判断アンケート、穴埋めテスト、翻訳、作文などによるオノマトペの習得調査）

次に、 で得られた調査資料から話し言葉・作文中間言語コーパスを作成し公開する。各レベルの日本語学習者の中から選定した学生にインタビュー録音し、作文を継続的に収集しデータベース化する。中国・台湾・インドネシア・ベトナム国内における習得データは貴重である。

最後に、誤用の多いものの原因を分析し、教育方法の効率化について考察し、教材・教授法の開発をする。文法・語彙・言語習慣の側面から誤用の原因を分析し、効率的な教授法の発案、自主学習用教材の開発に結び付ける。

研究体制は以下の通りである。

- ・研究分担者の杉村泰は、主に中国での言語調査を行い、中間言語コーパスの構築・分析、及び効果的な教育方法の開発において重要な役割分担を担う。また、心理・感情・感覚表現の研究者としてオノマトペの言語分析に協力する。
- ・研究協力者（国内）の西郡仁朗、神村初美、三枝令子、遠藤織枝は医療福祉分野の日本語教育専門家として、国内外の日本語教育者、医療福祉施設、外国人従事者への言語調査、情報収集に協力する。廣部久美子は医療通訳者として言語調査、心身のオノマトペの言語対照に於いて協力する。他の協力者（名古屋大学・大阪大学大学院生）は学習者中間言語データの文字化作業、およびコーパス作成の補助作業、オノマトペの視聴覚教材作成の補助を行なう。
- ・海外の研究協力者は、日本語学習者中間言語データの収集を頻繁な相互連絡によって行い、ネイティブチェックに協力する。本研究は下図のような研究体制をとる。（敬称略）



< 海外教育機関で習得調査を実施する日本語学習者 >

杭州師範大学、常州工学院、南京農業大学日本語学習者(250名)、開南大学日本語学習者(50名)、インドネシア教育大学日本語学習者(50名)、ハノイ大学日本語学習者(50名)

#### 4. 研究成果

オノマトペ研究において、感情・感覚などの心身状態を表す擬態語に特化した研究は僅少であったが、本研究ではこれらの語彙を語形により分類し、それぞれの意味特徴を観察し、語形と意味の相関について考察した。擬態語オノマトペは習得面での難易度が高い分野とされているが、医療福祉人材の養成においては使用頻度が高く教育の必要性が注目されており、初級からの導入も検討されている。中国語話者日本語学習者に実施した質問紙調査により、語形と意味の関係を導入内容に入れた場合の方が理解・定着が促進されることが実証され、オノマトペの効率的な指導方法として、形態と意味の関与を内容に入れた体系的な指導が有効であることを提案した。オノマトペの形態によって意味や機能を推し量ることができるようになる事は日

本語学習において大きな手掛かりとなり、より効率的な指導法に応用できる。

従来のおノマトペ教育では個々の意味説明が中心の単発的な指導であり、導入数が少なく習得率も低かったが、本研究の習得調査により、形態と意味の関係性を説明に入れることで習得が強化され一定の学習効果があることが証明された。学習の効率性を高めるためには、形態と意味の関与を初期導入から指導することが望ましい。

研究成果の一部をまとめ、『介護・看護のおノマトペ「もぐもぐ」・「ぜいぜい」は中国語、英語、ベトナム語、インドネシア語、ネパール語、タイ語でどう言う?』(和泉書院)として出版した。また、CASIO 電算機株式会社学習開発部門に本研究のデータの一部を提供し、自主学習用アプリを共同開発中である。対訳語として中国語、英語、ベトナム語、インドネシア語、ネパール語、タイ語をデータ化し、2022 年度中におノマトペ学習アプリとして公開予定である。

<参考文献>

- Akita, Kimi(2009) *A grammar of sound-symbolic words in Japanese: Theoretical Approachs to iconic and Lexical Properties of Mimetics*. Ph.D. dissertation, Kobe University.
- Takehi, Hisao, Ikuhiro Tamori, Lawrence Schourup(1996) *Dictionary of Iconic Expressions in Japanese*, 2 vols. Mouton de Gruyter.
- Tsujimura, Natsuko(2001) "Revisiting the two-dimensional approach to mimetics:A reply to Kita(1997)," *Linguistics* 39, 409-418.
- 小野正弘(編)(2007)『擬音語・擬態語 4500 日本語おノマトペ辞典』小学館.
- 角岡賢一(2007)『日本語おノマトペ語彙における形態的・音韻的体系性について』くろしお出版.
- 杉村泰(2017)「日本語のおノマトペ「ヒリヒリ、ヒリッ、ヒリリ」,「ビリビリ、ビリッ、ビリリ」,「ピリピリ、ピリッ、ピリリ」の記述的研究」*ことばの科学* 31, 111-130
- 浜野祥子(2014)『日本語のおノマトペ』くろしお出版.
- 吉永尚(2008)『心理動詞と動作動詞のインターフェイス』和泉書院.
- 吉永尚(2011)「中国語話者における心理表現上の母語干渉について」*園田学園女子大学論文集* 第 45 号, 167-180.
- 吉永尚(2016)「感情・感覚を表す擬態語の語彙特性についての考察 - 擬態語動詞の観察を中心に - 」*日本言語学会第 153 回大会発表予稿集*.
- 吉永尚(2017)「心身の状況を表す擬態語の習得についての考察 - 中国語話者の作文データをもとに - 」*園田学園女子大学論文集* 第 51 号, 93-103.
- 吉永尚・廣部久美子(2018)『介護・看護のための日中英対訳用語集』和泉書院.

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 5件/うち国際共著 4件/うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 吉永尚	4. 巻 2021年春号
2. 論文標題 心身の状況を表すオノマトペの習得について 中国語話者の言語データをもとに	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 早稲田文学	6. 最初と最後の頁 146-160
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 吉永尚	4. 巻 55
2. 論文標題 語形と意味の相関について 体感のオノマトペの観察をもとに	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 園田学園女子大学論文集	6. 最初と最後の頁 95-103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 杉村泰	4. 巻 34
2. 論文標題 痛みを表す日本語のオノマトペの選択に関する一考察 日本語話者と中国人日本語学習者の比較	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ことばの科学	6. 最初と最後の頁 25-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18999/stul.34.25	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 吉永尚	4. 巻 7月臨時増刊号
2. 論文標題 心身の状態を表すオノマトペの習得研究－医療福祉分野への貢献を視野に入れて－	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 73-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 吉永尚	4. 巻 第54号
2. 論文標題 撥音終止オノマトベに関する考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 園田学園女子大学論文集	6. 最初と最後の頁 37-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 杉村泰	4. 巻 第33号
2. 論文標題 日本語のオノマトベ「ズキズキ」、「ズキン」、「ズキンズキン」の記述的研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『ことばの科学』名古屋大学言語文化研究会	6. 最初と最後の頁 25-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18999/stul.33.5	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 杉村泰	4. 巻 第33号
2. 論文標題 日本語のオノマトベ「ガンガン」、「キリキリ」、「シクシク」、「ジンジン」、「ジーン」の記述的研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『ことばの科学』名古屋大学言語文化研究会	6. 最初と最後の頁 5-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18999/stul.33.25	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計4件(うち招待講演 0件/うち国際学会 3件)

1. 発表者名 吉永尚
2. 発表標題 体感のオノマトベの形態と意味の相関
3. 学会等名 第106回第2言語習得研究会(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 吉永尚
2. 発表標題 痛覚を表すオノマトペの語形と意味の相関について
3. 学会等名 看護と介護の日本語教育研究会第20回（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 杉村泰
2. 発表標題 「痛みを表す擬態語「ヒリヒリ」「ピリピリ」「ビリビリ」について
3. 学会等名 第17回日本語教育研究集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉永尚
2. 発表標題 感覚のオノマトペの語形と意味の関与に着目した指導について
3. 学会等名 ハノイセミナー（アジア還流学会、於ベトナム）（国際学会）
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 吉永尚・遠藤織枝他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 スリーエーネットワーク	5. 総ページ数 138
3. 書名 上下ルビで学ぶ介護の漢字ことば	



1. 著者名 吉永尚・廣部久美子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 和泉書院	5. 総ページ数 315
3. 書名 介護・看護の日中英対訳用語集	

1. 著者名 吉永尚・廣部久美子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 和泉書院	5. 総ページ数 100
3. 書名 介護・看護のオノマトペ「もぐもぐ」・「ぜいぜい」は中国語・英語・ベトナム語・インドネシア語・ネパール語・タイ語でどう言う？	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	杉村 泰  (Sugimura Yasushi)  (60324373)	名古屋大学・人文学研究科・教授    (13901)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 看護・介護の日本語教育研究会	開催年 2020年～2020年
--------------------------	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------